

令和6年度 第1回 富山市上下水道事業経営審議会 会議録

- 1 日 時：令和6年8月26日（月） 午後2時～午後4時
- 2 場 所：Toyama Sakura ビル 5階 中会議室
- 3 出席委員：上田委員、上野委員、尾畑委員、北岡委員、猿田委員、高橋委員、田中委員、辻委員、中村委員、西口委員（50音順）
- 4 事務局：上下水道局長、上下水道局次長、上下水道局次長（技術担当）、上下水道局参事（下水担当）、経営企画課長、契約出納課長、料金課長、給排水サービス課長、水道課長、下水道課長、上下水道施設管理センター所長、流杉浄水場長、浜黒崎浄化センター場長
- 5 報 道：5社（北日本新聞、富山新聞、読売新聞、チューリップテレビ、日刊建設新報）

<p>事 務 局</p>	<p>定刻となりましたので、ただ今から、第1回 富山市上下水道事業経営審議会を開会いたします。</p> <p>当審議会の会議は、富山市上下水道事業経営審議会要綱 第4条第2項の規定により、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないとされています。</p> <p>本日は、ご都合により森口毅彦委員がご欠席となっておりますが、11名中10名の委員の皆様にご出席いただいております。会議が有効に開催できることをまずご報告させていただきます。</p> <p>なお、この会議は公開会議としておりますので、ご承知おき願います。</p> <p>それでは、はじめに、富山市上下水道事業経営審議会委員の委嘱を行います。</p> <p>委嘱状につきましては、上下水道事業管理者の前田よりお渡しします。管理者が委員の皆様のお席を回ります。</p> <p>私がお名前を読み上げますので、ご起立のうえ、委嘱状をお受け取りください。</p> <p>《上下水道事業管理者から委員の皆様へ委嘱状交付》</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、上下水道事業管理者の前田からご挨拶を申し上げます。</p>
<p>上下水道事業管理者</p>	<p>ただいま、富山市上下水道事業経営審議会の委員として、本日もご欠席の方1名を除きまして、10名の皆様に、委嘱状をお受け取りいただきました。</p> <p>皆様方におかれましては、大変ご多用の中、委員の就任のお願いをお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>当審議会は、富山市上下水道事業の経営に関し、専門的な見地、或いは幅広い視点からご意見を頂戴するために、今回新たに設置いたしました審議会でございます。</p> <p>さて、現在、本市の水道の普及率は、99%に達しております。</p> <p>また、公共下水道につきましても、平成28年度に、面的整備が完了したことで、令和5年度末で水洗化率は96.9%となっております。</p>

<p>事務局</p> <p>上下水道局長</p>	<p>さらに、農業集落排水や合併浄化槽などを加えた汚水処理全体の人口普及率は、これも令和5年度末で99.4%に達している状況にありまして、上水道、公共下水道ともに、拡張整備の時代から、既存施設の更新や適正な維持管理による基盤強化の時代に入っているといえるものと考えております。</p> <p>こうした上水道事業におきましては、急速に進む人口減少や節水型機器の普及などにより、料金収入が平成22年度以降、減少の一途をたどっているところであります。</p> <p>また、公共下水道事業につきましては、最近まで面的整備を進めてきたこともあって、下水道使用料収入の推移に極端な傾向は見られないものの、今後は、水道料金と同様の推移をたどっていくことが確実視されているところであります。</p> <p>一方で、今後、多くの上下水道施設が老朽化に伴う更新時期を迎えるため、施設の更新や、先般の能登半島地震などの自然災害に備えた耐震や浸水対策などを着実に推進することが求められておりますが、先ほど申しましたとおり、給水収益等の減少に加え、昨今の物価高騰による電力費や薬品費、その他資材価格の高騰により、経営環境は、年を追うごとに厳しさを増している状況にあります。</p> <p>こうした経営環境を取り巻く厳しい現状や課題等に対応するため、本市におきましても、長らく行われていなかった料金等の改定について、検討を進めて行かなければならない状況となっております。</p> <p>委員の皆様には、難しいご審議をお願いすることとなりますが、将来にわたり、安心、安全で、そしておいしい富山市の水道水を市民の皆様にあ安定的にお届けするため、また、今後、下水道施設の適正な維持管理を実現し、快適な生活環境を保持していくためにも、委員の皆様の活発なご議論と、貴重なご意見、ご提言を賜りますことを切にお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はよろしくようお願い申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、委員の皆様のご紹介に移りますが、お手元にお配りしております委員名簿と座席表を併せてご確認くださいことでご紹介に代えさせていただきますと存じます。</p> <p>また、オブザーバーといたしまして、東洋大学 名誉教授 石井晴夫様、富山県厚生部 生活衛生課長 藤本明彦様をお願いしております。</p> <p>本日、石井様はご都合によりご欠席となっております。</p> <p>次に、上下水道局側の出席者を紹介いたします。</p> <p>局長から順に自己紹介いたします。</p> <p>局長の酒井と申します。</p> <p>委員の皆様からは、忌憚のない、また、貴重なご意見をいただき、将来を見据えた足腰の強い上下水道事業経営とし、そして利用していただく市民の方々へ、さらなる安全、安心、安定の提供や、高い信頼を上下水道事業の運営につなげて</p>
--------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>事務局</p>	<p>まいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>《以下、局次長から順に出席者 自己紹介》</p> <p>続きまして、議事に移ります。</p> <p>次第4「会長の選出 及び 会長職務代理の指名」の件についてです。</p> <p>当審議会要綱 第3条第1項 及び 第3項の規定では、会長は委員の互選によること、また、会長職務代理は、会長があらかじめ指名することとなっておりますが、会長及び会長職務代理の就任について、事前に上下水道局から辻琢也委員に会長就任のご相談を、また、森口毅彦委員に会長職務代理就任のご相談を行い、お二人よりそれぞれご内諾をいただいております。</p> <p>委員の皆様にお諮りしたうえで、ご異議がなければ、辻委員に会長を、森口委員に会長職務代理をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>各委員</p>	<p>異議なし</p>
<p>事務局</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ご異議がないようですので、辻委員には会長、森口委員には会長職務代理をお願いいたします。</p> <p>恐れ入りますが、辻委員は会長席にお移りください。</p> <p>《会長席へ移動》</p> <p>それでは社会長から一言ご挨拶をよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ただ今、ご紹介いただきました、一橋大学の辻と申します。</p> <p>私の専門は、行政学、地方自治学ということで地方自治全般の立場から今回の審議会の議論にあたっていきたいと考えております。私が若いころ、最初に勉強したころ、富山市という充実した福祉サービスの提供が一番印象に残っております。また、近年は、コンパクトシティをはじめとするまちづくりを推進されているところであります。</p> <p>今回、このお話をいただいて改めて見てみますと、富山市を支えてきた一番の魅力の一つに豊かな水資源、これに基づく上下水道の環境をしっかりと保っていくことがあると改めて認識しているところであります。</p> <p>現在、いろいろな水に関する話題が世界で話されています。</p> <p>また、合わせて、1月1日の能登半島地震の際には改めて、上下水道の役割、重要性が認識されておりまして、この世界に誇れる量と質を持っている上下水道サービスを将来にわたって、安定的かつ持続的に提供していくために、どういうこ</p>

<p>事務局</p>	<p>とをしていけばよいのか、皆さんと知恵を出し合って良い結論を出していきたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして次第5「諮問」の件です。</p> <p>上下水道事業管理者の前田から富山市上下水道事業経営審議会を代表し、会長へ「上下水道事業における適正な水道料金等の設定について」諮問をいたします。</p> <p>会長は机の内側へお願いいたします。</p>
<p>上下水道事業管理者</p>	<p>富山市上下水道事業経営審議会 会長 辻 琢也 様</p> <p>諮問事項</p> <p>「上下水道事業における適正な水道料金等の設定について」でございます。</p> <p>将来にわたり健全な事業経営と安全で強靱な上下水道施設を維持し、持続可能なサービスを提供していくため、本市上下水道事業における適正な水道料金等の設定について、貴審議会の意見を求めるものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>《上下水道事業管理者から会長へ諮問書を手交》</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>会長はお席にお戻りください。</p> <p>上下水道事業管理者の前田はここで退席させていただきます。</p> <p>《上下水道事業管理者退席》</p> <p>それでは、ここからの議事進行につきまして、辻会長をお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、引き続き、議事を進めさせていただきます。</p> <p>次第6「富山市の上下水道事業の経営状況等について」担当課から説明をお願いします。</p>
<p>経営企画課長</p>	<p>《事務局から「富山市上下水道事業の経営状況等について」説明》</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>上下水道事業の経営状況から世界の状況まで説明いただきました。</p> <p>この後、今日は1回目ということで、皆さんから自由に意見をいただきたいと思っております。</p> <p>それでは、ただいまの説明について、ご質問等はありませんか。</p>

A 委員	<p>すぐに質問が出ないかもしれませんが。それでは、順に意見ををお願いします。A委員、意見はありますでしょうか。</p>
A 委員	<p>はい。水道料金の値上げが必要だということが、よくわかりました。</p> <p>それで、ちょっと気になったのが、水道管を更新した後、水漏れがあったときに、自動検知システムのようなものはどのようになっているのでしょうか。</p>
会長	<p>事務局をお願いします。</p>
上下水道局次長(技術)	<p>いわゆる配水管、道路の中に埋設されている水道管から水漏れがあった場合の検知の方法ということだと思いますが、具体的に現在、富山市の水道管は約3,200kmございます。その水道管に例えば要所、要所に漏水の調査するような機器を設置して、定期的に、或いはリアルタイムにその漏水情報を把握するというような施設は整備されていないところでございます。</p> <p>ただ、例えば富山地域では流杉浄水場で、水を配る場合は配水池というところに1度、製造した水を溜めております。そこから出る量については、リアルタイムで情報を確認しています。日頃、水の出ている状況、お昼時、或いは夜であれば、こういう状況というトレンドといった過去の情報を蓄積しています。</p> <p>例えば、そこに異常がある場合、漏れると多く出るわけですから、そういった異常がある場合については、運転管理業務委託で24時間監視してる業務委託業者から、直接、職員に連絡をいただいて、確認をするといったようなことは行っております。また、それぞれの配水地というものは、1箇所だけではないものですからその拠点、拠点でそういったことをやることによって、その調査で漏れを確認するという行っています。</p> <p>それ以外にも、漏水調査等の業務委託を、約3,200kmに対して、年に1回、施設の漏水調査を行っております。</p> <p>例えば流速ですとか、水圧ですとか、そういったものを業務委託で専門業者が調査を行って、年々の変化を確認するというような作業を行い、把握しているところであります。</p>
A 委員	<p>ありがとうございます。今後、水道管を更新していく際に、水道管にそういったものを設置するのとか、そういう計画も含めて、この水道料金を今後どのようにしていくのか考えていくことが必要だと思います。</p> <p>また、少ない職員の中で、上下水道事業を行っているということですので、そういった効率的な事業経営が必要だと思います。</p> <p>加えて、職員が非常に少ない中で、今後どのように技術継承していくのかということも考えていく必要があると思います。</p>
会長	<p>はい。技術の継承について何か、事務局の方からコメントありますか。</p>

上下水道局次長(技術)	<p>当方の説明の中で(H16:248人→R6:160人)職員数の削減について説明をさせていただきますましたが、技術継承という部分では、定年となった、長く施設の運転管理を行ってきた職員を、定年後も一定程度雇用して、その雇用期間内に技術を継承する、或いは局内において技術研修を行っているところであります。</p> <p>加えて、今、上下水道事業の中心となっている流杉浄水場、或いは浜黒崎浄化センターという最も重要な基幹施設は、運転管理業務を行っており、民間のノウハウを使って、運転管理を行っているので、そういった民間との情報交換や技術指導を受けながら、技術水準を維持していくことができると認識しております。</p> <p>また、これからもそういったことを継続していく必要があると考えております。</p>
上下水道局長	<p>さらに、先ほどの漏水の関係についてですが、いろいろと新聞等のマスコミ報道などで、衛星を使った漏水調査やスマートメーターという言葉が出ていていると思いますが、本市でも、漏水対策やいろんなサービスの1つとして、スマートメーターを一部地域で取り組んでおります。</p> <p>要は個々のメーターのデータを直接、こちらの方でタイムリーに読み取るというものです。</p> <p>それによってある程度、その宅内の漏水等を把握することができるものです。</p> <p>また、衛星を使った技術というものもあるんですが、現在のところ、まだその技術が出たところで、その費用対効果の検証が必要でありますので、いろいろな事例も踏まえまして、今後その導入の可能性を検証していく必要があると考えております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、B委員お願いします。</p>
B委員	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>感想的なコメントになってしまいますが、基本的にインフラが今後、老朽化していき、人口が減っていく中で、段階的に料金値上げしていかないと多分持続可能な水道事業は厳しいのではないかと、これは世の中でいろいろ言われています。</p> <p>これまでの経緯などを踏まえても、妥当ではないかと感じたところです。</p> <p>この北日本新聞さんの記事も拝見して、今後、段階的に値上げしていくとしても、どの程度、値上げしていくかというのが一番のポイントになり、この値上げ幅をどういうふうに市民の方々に理解していただくかというのが一番ということで、例えばトップが判断する観点で言うと、まず老朽化への投資だとか、あと耐震化への投資だとか、あとその投資と収益のバランスをどう見るかというところが、今後のその検討の中で一番重要になってくるのではないかと思います。</p> <p>中長期ビジョンの進捗状況を39ページ以降示していただいて、このビジョンだとまだ能登半島地震が起こる前に設定されたものだと認識してますので、おそら</p>

	<p>くこの震災を踏まえて、追加として必要になってくる耐震化はどれぐらいあるのだろうか。あとは老朽化投資でもっと必要になってくるものはどれぐらいあるのだろうかとか、逆に絞るのはどこなのか。富山市の今後かかってくる見積もりを、今後、多分シミュレーションのようなもので示していかれると思います。</p> <p>まず、そういう理解でよろしいのかというのが1つ目です。</p> <p>あと経営の効率化においても、いろんな事例を示していただけていますが、今、水道事業でいろいろ言われてる中で、キーワードとしては広域連携や、広域化という話があります、富山市の場合はもうすでに平成17年の合併のときに、もう疑似的に広域化されているということなのかどうか。</p> <p>このあたりの認識を伺わせていただきたい。</p> <p>広域化にもいろんな段階が多分あって、一番難易度が高くて難しいところで、事業統合だと思いますけど手前のところで言うと、管理を共通化しましょうとか、施設を供用化しましょうとかそういった取り組みの順番もあると思います。</p> <p>このような観点から見ても、こういった取り組みの広域化によるコストダウン、効率化、経営改革、こういうものに取り組む余地があるのか。</p> <p>こういったことを今後検討された上での値上げの幅を決めていく、そういうプロセスをお聞かせいただきたいと思います。</p> <p>まとめますと、今後、何らかのシミュレーションをして、値上げの幅を決めていくっていうことになると、その投資をどういうふうに見ていくのか。</p> <p>効率化のところをどのように考えているのか。現在の方針や方向性が少しでもあるようだったら教えていただきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい。今後、議論を詰めていくにあたって非常にキーになる場所です。</p> <p>大きく分けて2つですが、今日ですべてお答えいただくというより、現在のところでお答えできる場所をお願いします。</p>
<p>経営企画課長</p>	<p>まず、財政シミュレーションは、今後、行っていくことにはなりますが、まず、先ほど委員がおっしゃられたように、能登半島地震を受けて、どれだけの耐震化対策の投資をしていくかというのは、現在、中身を詰めている最中でありまして。</p> <p>そこで基本的には5年程度の投資計画をベースに、料金、資金の不足額を計算していきたいと現在考えているところでありまして。その中で当然、経営改善に向けた取り組みの中で、ご紹介ありました広域連携もあるところではあります、最初におっしゃられたように、富山市は平成17年の市町村合併で、広域化されているところでありまして。</p> <p>実際に、現在は合併前の市町村の枠を超えて水道管が繋がりと、供給されているところでありまして。</p> <p>現在、富山県の生活衛生課課長にもご出席いただいておりますが、広域化という話もあるところでありまして。</p> <p>ただ、富山市の基幹の流杉浄水場から水を分配するという話になりますと、水</p>

<p>上下水道局次長(技術)</p>	<p>利権等もあり、現状直近5年間の段階で、人口が減り、水需要も減ったからといって、それをすぐに分配できるかという現状は難しいというふうに考えております。</p> <p>補足になりますが、先ほど事務局から説明した資料のうち、参考資料として付けさせていただいている52ページに、市町村合併と新富山市というページがあります。</p> <p>その合併時点と令和5年度末時点で、一番端的に示しているものが右側の下の表に水源が合併時100ヶ所となっております。</p> <p>水源というのは、浄水場で水を作るためのその基となる水、源水と言っておりますが、本当の基になる水です。常願寺川の表流水や、中山間地の方へでは山から湧いている湧水等があります。その水源が合併時には100ヶ所ありました。</p> <p>市町村合併後、概ね7年程度の時間をかけて、平成25年度までに、右側に書いてある通り70ヶ所まで、水源を減らしています。</p> <p>減らしたのは、例えば、隣接する集落同士の小規模な水道施設の統合です。こういったことなどを、積極的に行ってきた結果、水源を、70ヶ所まで減らすことができました。今ほど、平成25年と言いましたが、それから正味10年経ってまますが、現在の水源となっております。</p> <p>人口配分でいけば、この水源は維持していかなければならないと考えております。いずれ、さらに人口減が進んだときには当然変化が生まれると思いますが、現状、いわゆる新市になってからの富山市においては、最大限の統合を行ってきているということでもあります。</p> <p>加えて、水道法が平成30年に改正されまして、先ほど言われました通り、都道府県が積極的に、広域化計画を作るようにということで、本日、オブザーバーで来ていただいております富山県的生活衛生課さん等を含めて、富山市、富山県の水道広域化プランというものが、令和5年の3月に公表されてます。</p> <p>その中で富山市の位置付けにつきましては、富山市、立山町、上市町、舟橋村滑川市、いわゆる富山広域圏と言われるブロックで、将来的には広域化を図るのが最も望ましいであろうという結論はいただいておりますが、今ほど経営企画課長が申し上げた通り、それぞれの富山市も含めて、限られている水源が、現在、供給の最大値であります。</p> <p>先ほど平成29年とか令和4年に大雪によって、水の需要が増えましたとありましたが、家の前の雪を融かすため、家の中だけではなく、家の外で消費されるようなお客様もいらっしゃる、現在持っている能力を、最大限使っていただいたという現状にありましたので、他の市町村に供給をすとか、或いは供給していただくという状況にはないところです。</p> <p>現在の広域化プランの中で、まずは、例えば薬品ですとか、そういったものを共同購入すとか、或いは料金の徴収システム等を統一化する。現在、そういったことを足がかりに、将来の広域化に向けた準備を進めていくのが望ましいとい</p>
--------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>うようなプランとなっております。</p> <p>そういった意味では、今後、財政シミュレーション等含めて広域化の議論、検討等をしていく中では、現状は、限界のところまで作業を行っていくことになるというふうに考えております。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>現在、話題になりましたので、参加されてます富山県の生活衛生課長さん、ご意見の方、よろしく願いいたします。</p>
<p>富山県生活衛生課長 (オブザーバー)</p>	<p>今ほど広域化推進プランの話もありましたけれども、それに加えて今の水道ビジョンも作る予定であります。そのあたりについて市町村とも、調整しながら、なかなか難しいという部分はありますが、そういったところも現在、進めていこうという状況にあります。</p>
<p>社 会 長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは続きまして、C委員いかがでしょうか。</p>
<p>C 委 員</p>	<p>一市民的な立場からお話させていただきます。</p> <p>今、資料について説明いただいて料金改定の必要性というのはわかりました。</p> <p>ただ、一般の方々、市民、住民の方にとっては、水道だとか下水っていうのは、それが事業であり、経営なんだっていうことの理解をなかなかされてないと思います。</p> <p>ちょっと変な言い方をすると、水道っていうのは、蛇口ひねったら出てくる。</p> <p>下水っていうのは、水洗でしたら、バツと自分の目の前から汚物が流れて見えなくなってしまう。</p> <p>その水が安心安全に、どういうことをしたら出てくるのかだとか、下水の処理がどういう形で費用がかかって処理されているかということ、まず住民の方に、わかってもらう必要があるというふうに思います。</p> <p>ご案内の通り、昨今、いろいろな諸物価が高騰している中で、市民の生活に影響のあることですので、必要性だとかを丁寧にわかりやすく示していくことが必要ではないかと思っている次第です。</p> <p>確認として、料金体系の説明がありましたが、これは基本料金や従量料金があり、従量制を取っているということですが、使えば使っただけ高くなくなりますという話だと思います。</p> <p>やはり、水っていうのは皆さん等しく供給していただきたいと思います。</p> <p>経済的に困窮してるから、水使わなくて、節水するって言っても限界があると思います。そういった点も、広く市民に関わってくるので、そのあたりも配慮していく必要があると感じました。</p> <p>確認ですが、水道料金や下水道使用料の減免規定はどうなっているのか教えて</p>

<p>会 長</p>	<p>いただきたい。たとえば、災害にあったときは、減免などはどうなっているか教えてください。</p> <p>ご意見、ご質問、大きく3点ぐらいありました。 事務局いかがでしょうか。</p>
<p>経営企画課長</p>	<p>まず1点目、上下水道事業が、要するに経営でやってる、市民の税金ではなく、会社として経営でやってるといふところの理解につきましては、広報やケーブルテレビなどを通じて周知していきたいと考えております。委員もおっしゃられたように、上下水道事業がどんなことやってるか、本日、資料を出させていただいて、こういう事業をいろいろやってますといふところをお話させていただきましたが、同様に市民に対して情報発信を強化していくといふことは大変重要であると認識しております。今後、今この審議会と合わせまして、情報発信していきたいと考えております。</p> <p>次に2点目のすべての人に等しく提供されるべき上下水道サービスということですが、当然その通りでありまして、料金の設定につきましては、今、富山市は基本料金と従量料金と2つあります。</p> <p>自治体によっては基本料金の中で、基本水量を持っている、例えば10 m³分まで含めますといふように、いろんなパターンがあるかと思ひます。</p> <p>そのあたりにつきましては次回以降の審議会の中でまた情報等を提供させていただきたいと考えております。</p>
<p>上下水道局次長</p>	<p>最後に3点目、減免関係について答えさせていただきます。</p> <p>例えば、所得が厳しい観点で減免する場合、下水道使用料につきましては、生活保護をされてる方に関して、一定の減免があります、これは市の一般会計の方で負担いただいて減免するといふものがあります。水道に関しては、こういった実績はございません。</p> <p>ただし、さっきおっしゃった災害等に関しては、管理者が、その都度、判断をするという規定があり、実施しております。</p> <p>実際、能登半島地震の際には減額を行っております。液状化の状況等で前年同月と比べて、著しく水道が使われた場合がありましたので、前年同月に合わせるなど、臨機応変に行っているところでございます。</p>
<p>会 長</p>	<p>ご指摘の点はこれからの議論の中でも、消費生活に与える影響となる重要なものです。これについてはモデルケース等で示すことになってくると思ひます。</p> <p>これが各家庭でどうなってくるかといふことは何等かの資料で示していただければと思ひます。</p> <p>それでは、D委員お願いします。</p>

D 委 員	<p>値上げするということについては、将来的にはありうることだろうとは思っております。</p> <p>ただ、資料の6ページの件ですけれども、人口が年間どのくらい減っているのか。例えば、空き家、転居やそこに住んでいらっしゃった方が、例えば、いろんな事情で施設に入ったり亡くなられたりしてるということなどあるとは思いますが、人口的にどのくらい減ってるのか。料金が上がっていくというところにもなると思うので、わかりましたらその辺のところを教えてくださいと思います。</p>
会 長	<p>事務局いかがでしょうか。</p>
上下水道局次長(技術)	<p>まず水道に関してですが、新たにお客様となられて、メーターを設置していただく新規の加入等については、数字は把握しています。</p> <p>加えて、今おっしゃるように、転居等で一時的に水を使わないといったような場合、給水を停止される方については、開栓や閉栓の申し込みがあるので、数字は確認できますが、ご質問いただいたような、お亡くなりになられても、メーターの閉栓等の手続きがされてない場合は、そのまま開栓したままの契約が継続されるというようなことがあるので、その亡くなった人数、或いはメーターの個数によって、どれくらい減ったかというような細かな数字までは、こちらの方で集計をとってるということはない状況です。</p> <p>ただ、現状、人口が減っている状況と、それに見合う収入や有収水量が減ってるというところが、今この表にそれぞれ示しているような状況で、減少傾向となっているところでもあります。今、口頭で質問されたような内容のところまでは、細かな分析把握はしていないという状況であります。</p>
上下水道局長	<p>補足としまして、実際には有収水量、人口自体は減っていますが、実は契約戸数は年々増えてます。</p> <p>人口は減っていますが、契約数は年々逆に増えています。ですから平均すると1件当たりの人数が減ってるというような状況で、一方、加入という部分は、増えているという状況であります。</p>
上下水道局次長(技術)	<p>皆さんにお配りしている青い冊子の令和5年度上下水道事業年報というのがあります。</p> <p>この2ページをご覧くださいますと、左上に「2 業務統計」という記載があります。この表の中の上から4段目に「給水栓数」と記載されていると思いますが、今局長が説明申し上げた、現在富山市で契約いただいている給水栓の数になります。</p> <p>過去3年間記載しておりますが、ご覧のとおり、令和3年から徐々にではありますけれども給水栓数が増えております。</p>

<p>会 長</p>	<p>おそらくご結婚等なされて、親元を離れた方々がそれぞれ新たな住まいの中で、新規にメーターを設置されているということで、使用水量は減っているものの、契約いただいている数が増えているというのが現状です。いずれ鈍化していくとは思いますが、現状は増えております。</p> <p>D委員よろしいですか。 それではE委員お願いします。</p>
<p>E 委 員</p>	<p>はい。よろしくお願いいたします。 私からは2点ございまして、まず1点目は、昨今のゲリラ豪雨についてです。38 ページには1時間当たり 58mm の雨が降った場合の浸水発生シミュレーションが記載されていますが、最近では、100 mmを超える雨も珍しくないと思います。 今の貯留施設の容量、大体どの程度の豪雨対策されているものなのかを知りたいことと、テレビなんか見ているとマンホールが、飛ぶという映像を見るので、そういったマンホールの入れ替えなんか、検討に上がっているかという豪雨対策のことが1点目です。 あともう1点ですが、限られた財源の中で、様々な整備が必要なものもわかりますが、取捨選択をしていく必要があるといった中では、優先順位を知りたいというところがあります。 いろいろある中で、何が急務なのかということとをすでに上がっているのであれば教えていただきたいと思います。 以上2点、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい。それでは事務局お願いします。</p>
<p>下 水 道 課 長</p>	<p>はい。ご質問ございました件につきましては、計画降雨というものになります。 こちらの38ページの資料では、富山駅南側、先程、事務局から説明いたしました一本の下水道で、汚水と雨水と一緒に処理する区域で合流式下水道区域です。 こちらにつきましては、1時間当たり 58 mm の雨がいったときにそれに耐えうるような施設整備を進めているところでございます。こちらの図面にあります松川貯留施設というものは、すでに完成したものでありますが、現在はそれ以外の面的な管、管路の能力がまだ追いついていないものですからこちらの方を整備しているところでございます。 合流式下水道区域以外の区域はいわゆる分流式といいますが、雨水は水路などから川に注ぎ込む、また、汚水管は汚水が流れているものでありますが、この分流式下水道区域の雨水の計画降雨につきましては、地域ごとで、若干差はありますけれども、富山地域（旧富山市）であれば、1時間あたり 49 mm の計画降雨に耐える施設というものを作っているところでございます。</p>

<p>上下水道局長</p>	<p>これにつきましては、現在、計画で進めているところですが、施設整備が追い付いていない地区もある状況でございます。ただ、おっしゃられたように、それ以上の大きな雨もあるわけで、見直しは、進めなければいけないが、現状は、今ご説明のと通りの対応方法で進めているところでございます。</p> <p>雨水貯留施設の関係の補足で、青い冊子の令和5年度上下水道事業年報の45ページをご覧ください。</p> <p>現在、上下水道局で整備しました富山市内の雨水貯留施設の一覧が掲載されています。</p> <p>本来、貯留施設は、排水路を改修して、貯留能力を高めるということをやっておりますが、なかなかそういうことができない場合に対応するため、このような整備をしております。</p> <p>先ほど下水道課長から説明がありましたが、富山地域（旧富山市）につきましては1時間あたり49mm、婦中地域（旧婦中町）ではそれより大きい計画となっております。それぞれの地域（旧市町村）によって計画が違いますが、現在、市長部局の建設部で浸水対策基本計画というものを見直しております。これは国の方で今の異常気象などを加味すると、現在よりも1.1倍の強い降雨が降り、それによって、河川の水量が倍ぐらいに増えるだろうなどと言われている状況の中、現在作業を進めてる最中でございます。</p> <p>策定期間は、未定であります。それを踏まえまして、この計画降雨は、変わってくると思います。</p> <p>さらに、それを踏まえまして今後、下水道の方の浸水対策の計画降雨というものを見直していかなければならないところがございます。</p> <p>加えて、見直した降雨と実際の整備した降雨では差がありますので、これにつきましては、一気にハード整備することは難しいことから、当面は、ソフト対策や、自助、共助で対策を進めることとあります。そういうところと並行してハード対策を進めていくというような流れになっております。</p> <p>現在、浸水に対する優先順位につきましては、浸水対策基本計画の中で、その被害が発生すれば影響が大きいところなどを含めまして、市長部局と協議を進めている段階であります。</p> <p>浸水対策については、以上となります。</p>
<p>上下水道局次長(技術)</p>	<p>次の点の優先順位として、何を選択して事業を行っているかというところがありますが、まず水道に関しましては、平成16年に中越地震がありまして、現在は国土交通省に移管されましたが、当時の所管でありました厚生労働省から、水道の耐震化計画等策定指針、老朽化した水道施設の何を優先して更新、或いは耐震化していくべきかといったものを、指針として定めたものが公表されております。</p> <p>それに合わせて、富山市の場合は地域防災計画という上位計画がありまして、呉羽山断層地震を最大震度とした、防災計画を作っているものと、照合させて、</p>

富山市の耐震化基本計画を策定しております。

結論を申し上げますとそういった国の指針指導に従って、その他の資料にも照らし合わせながら、耐震化計画を作った結果、中長期ビジョンとなっているものであります。先ほどその進捗状況を説明させていただきましたが、例えば管路で言えば、浄水場から皆様のご家庭まで供給する水道管のうち、いわゆる大動脈にあたるものが配水幹線であります。口径が 350 mm 以上の水道管を富山市では、配水幹線と言っておりますが、1 つ目には、まずはそれをしっかりと強靱化を図ることを最優先としております。

さらに富山市地域防災計画の中で、180 ヶ所あまりの避難所等を設定していますが、地震等で被災されると、市民の皆様は避難所に身を寄せていただくということになっており、そこに最低限の水は供給できるようにということで、2 つ目には、今そういった避難所に連絡する水道管の耐震化を図ることとしております。

以上大きな 2 つの柱について、現在の中長期ビジョンでも、耐震化を進めているということでありまして、現在、未達成ですので、今後もそれを中心に行っていくことになると思います。

加えて、今ほど少し下水処理の話があり、現在は地震対策がメインで行っていますが、今度浸水したときに、浄水施設や、水道、下水道施設が水に浸かって機能を損失しないように、新たな脅威に対する対応も国の方から求められていますので、今後はそういったものをプラスアルファしながら、施設の再構築を図っていくということが水道においては優先課題として、今取り組んでいることとなっております。

下 水 道 課 長

下水道事業の優先順位について申し上げます。中長期ビジョンにおける計画的なものとしたしましては、下水道施設の処理場や管渠の改築、及び将来的な処理場の統廃合、雨水幹線の整備、防災対策として耐震化などを謳っているところでございます。

また、中長期ビジョンの成果に関する目標としましては、老朽化対策したコンクリート管の割合や、浸水対策を行った面積について、目標を定めて、現在、進めているところであります。

ただ、今回の審議会でも、たびたびご発言がありますように、能登半島地震を踏まえたと、国の方でも上下水道施設の耐震化を行っていたものにつきまして、概ね機能は確保されていたと。逆に言えば、耐震化されていなかった部分につきましては重要な管路などでも、被害が生じて長期化しているということが示されております。

本市の下水道の耐震化対策といたしましては、管路の全長といたしまして約 2,600 km という広大な延長を持っております。

これを一気に耐震化ということはできませんので、その中でも重要な管路に、選り分けいたしまして、対策を進め、さらに重要な管路は、緊急輸送道路であります。こちらの方は緊急車両や物資輸送の要となりますので、この耐震化につ

	<p>いて、診断を行ってから耐震化するようなことを選び分け進めているところであり ます。</p> <p>また、処理場やポンプ場、こちらの方も並行して、対策しているところござ いまして、処理場におきましてもすべての施設を一気に改修することができない ので、最低限、震災が起きて機能維持できる部分を選びすぐって、管理本館で あったり水をくみ上げるポンプ施設であったり、そういう基幹施設の耐震化を合 わせて進めているところでもあります。</p> <p>優先といわれますと、そういう部分を今後加速していかなければならないと考 えております。</p> <p>最後に大雨の時にマンホール蓋が吹き上がることにつきましては、鍵が付いて いないマンホール蓋が、大雨の場合、マンホールの中に雨水が侵入し、空気の逃 げ場がなくなって持ち上がってしまうわけではありますが、古い蓋では鍵がついて ないため起こることでもあります。</p> <p>したがいまして、これまで申し上げました老朽化対策とあわせまして、鍵付き のマンホール蓋に取り替えているというところでございます。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい。ありがとうございました。 それではF委員、お願いします。</p>
<p>F 委 員</p>	<p>富山市の上下水道事業の現状について、丁寧な説明をしていただきましてあり がとうございます。</p> <p>市民の感情といたしましては、1月1日の能登半島地震をきっかけとして、水 の意識がガラッと変わりました。</p> <p>今までは、蛇口をひねると水が出てくるのは当たり前のことだったんですが、 ああいう大きな出来事が起きたら、当たり前のことが当たり前でなくなったと思 います。</p> <p>それで、ここの資料の中にも書いてありますが、従来の施設整備の拡張や事業 の推進から、維持管理に変わってきている。</p> <p>こちら辺の源泉といいますか、これが市民の間では、社会インフラの整備のた めの必要性っていうことで、非常に強く訴えられていると思うんです。</p> <p>ですから、たくさん説明をしていただきましたが、料金改定にあたっては、市 民の賛成っていうのは、得られるんじゃないかと思います。</p> <p>もう1つ逆の視点から言いますと、富山市の魅力っていうのは、豊かな水資源、 それから、先ほど管理者のご挨拶の中には、安心安全な水の供給、もっと大きな ことは、富山市の水はとってもおいしい。こちら辺の指摘ですね。こういう富山 市のよさの発信をしていく。</p> <p>もっともこのこういうことで、お金がピンチだから投資しなければならない っていうことも必要なんですけども、さらに水資源を確保し、さらに、おいし い水を提供していくために、繰り返しになりますが、よさの発信というようなプ</p>

	<p>ラスのイメージをもっともっと強く、訴えていくということが、市民の理解をより良く得られるのではないかと強く感じました。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい。事務局いかがですか。</p>
<p>上下水道局長</p>	<p>大変参考になるご意見だと思います。そういう視点も重要と感じましたので、そのあたりもしっかり踏まえて検討を進めたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい。それでは、G委員お願いします。</p>
<p>G 委 員</p>	<p>皆様のご意見がたくさん出たので、特段申し上げることはあまりないのですが、F委員がおっしゃったように、上下水道事業は徐々に進んでいると感じております。</p> <p>豊かでおいしい水が安く手に入ることは私たちの誇りでもあり、自慢であったのですが、一方で、例えば、大きな松川の貯留管ができたおかげで、雨が降ったら冠水するということがあったが、大きく改善したと思っておりますので、それを実感した人は、これは消費者の視点としては、施設更新をしていかなければならないと、また、特に能登半島地震があつて、合わせて課題を実感したと思えます。</p> <p>施設の更新にあたっては、従前のおりではなく、できるだけ新しい技術を積極的に研究され、費用対効果を検討し、施設更新と新技術のバランスを保ちながら進めていただきたいと思えます。</p> <p>そのための値上げという要因は、致し方ないかなと思えます。</p> <p>ただ、消費者としては、できるだけ値上げ幅を少なくしていただきたいということがあると思えます。</p> <p>消費者は節水をして、生活上の努力をしていたりしますので、そんな努力が報いられる料金体系であっていただけたらと思えます。</p> <p>現在の料金体系が本当にそれでいいのか、そういうことも含めて、上水道と下水道の双方の料金体系をもう一度、人口減少と施設の状態など、そういったものをトータルとして見ていただいて、料金体系についても十分、検討して提案をお願いしたいと思います。</p> <p>上げることについては、仕方ないと思っておりますが、私たちも報われるような、そういう料金体系であつて欲しいと思えます。</p> <p>あと質問ですが、上水の方は料金回収率が 98.8%、下水の使用料回収率が 89.3%となっております。これは井戸水を使っている方がいるからでしょうか。</p> <p>通常、水道を使っておりますと上水と下水をセットで自動的に、料金を支払うこととなりますが、下水の使用料回収率が、違っている理由を教えてください。</p>

会 長	事務局いかがですか。
上下水道局長	<p>先程のご説明した資料でいきますと、下水の使用料回収率は、14 ページになると思います。</p> <p>この使用料回収率につきましては、当然、使用料収入よりもそれにかかる費用の方が多くかかっているということなのですが、その点につきましては、先ほど経営企画課長の方から説明ありましたが、実は、下水の管の中には、例えば分流式下水道の場合、つまり（雨水管と別になっている）汚水管だけの場合でも、どうしてもその中に不明水、雨水が入り込んでしまって、それを一緒に処理場で処理しなくてはならないという現象が起きてます。</p> <p>この雨水に関する処理は、使用料収入にはならないものですから、その雨水についての処理費用は、一般会計の方から繰り入れしております。それを上乗せすると、14 ページの右の真ん中の方に青い字で、回収率が 100.27%という数字があります。一般会計の繰入金を入れれば 100%を上回るということですが、それを除いてしまうとどうしても雨の影響で赤字になってしまいます。これは公共事業的な要素が少しあります。</p>
G 委 員	わかりました処理場の問題でしたらいいんですが、ただ、井戸水を使っても流すので、そういうことを加味すると、調査をしなければいけないのではないかと思ったところです。
経営企画課長	井戸水だけ使用されていて、そのまま下水に流される方については下水道使用料だけ、いただいているところであります。
G 委 員	わかりました。私からは料金体系をしっかりとシミュレーションしていただきたいというところでございます。以上です。
会 長	<p>ご指摘の点はまさに今後の課題になりますので、この点を踏まえて議論していきたいと思います。</p> <p>それではH委員お願いします。</p>
H 委 員	<p>私からは、まず、19 ページのまとめについては、料金値上げに係ることですが、このとおりであると思います。</p> <p>料金については、そこには水を使う量があつて、そのうちにはコストが必要となってくる話ですから、さきほどからお話が出てるとおり、投資をするということが一番大きいのかなと思います。</p> <p>やっぱり、施設の老朽化とか、災害対策をどの程度やるのかによって、投資のレベルが変わってくると思います。というのは、結局、減価償却にはね返ってく</p>

	<p>る話でしょうから。そうしたところの優先順位をきちんと明らかにしていただければありがたいと考えております。</p> <p>また、料金値上げについても、どの期間なのか、将来にわたってどういうふうになるのかということも多分、投資を考えるにあたっては出てくると思います。そうしたところ、教えていただければありがたいかなと思います。</p> <p>加えて、節水すれば節水するほど、料金が上がってしまうという話になってしまう。わからないところとしては、これが基本料金と従量料金に分けられている何かの原因だと思えますので、どちらに影響してくるのかという話も合わせて、考え方を示していただければと思います。</p> <p>最後の点ですが、経営効率化で、要するに、業務委託で民間委託してますということが書いてありますが、中身を見ると、本来業務的なようにも見受けられます。</p> <p>従って、先ほど出ました技術継承という話ですが、技術継承していただくのは民間会社になってしまうので、その辺をもし効率化として進められるのであれば、その点も踏まえて、本当にいいのかどうかも含めて議論していただければいいのかなと思います。</p> <p>今、すぐ答えられなくても結構ですので、意見として聞いていただければと思います。</p>
上下水道局長	<p>ありがとうございます。</p> <p>まさしくご指摘いただいたところは、ポイントになるところと考えております。</p> <p>先ほどの料金の件につきましても、正直、本市の水道料金につきましては、基本料金がかなり低いと認識しております。</p> <p>ですからその分、従量料金にかかる負担が大きいので、先ほど、料金体系の件で、ご意見いただきましたので、そういうところはどのような料金体系にすべきかということはしっかり検証すべきところと意識しております。</p> <p>また、外部委託の件等につきましては、全国的に、最近はPPPやPFI、コンセッションなどがありますがいろんな委託業務の中では、最終的には政策的なところだけを事業主体がやるという、極端な話ではそういうところも出てきております。</p> <p>本市につきましては、スタッフ等職員が、他の事業体と比べましても、充実してるというふうに認識しておりますので、すぐそういうことにはならないと思いますが、しかし、今言われました技術の継承という部分につきましては、たとえ民間委託してもそれをしっかり検証しなくちゃいけないということもありますので、やはりそれは外部ではなくてしっかり内部でそういうものは継承していく必要があるというふうに認識しております。</p>
会長	<p>はい。民間事業者中心の時代でどう技術継承していくかは大変重要な問題であります。</p>

	<p>それと、もう1つ、前半に指摘いただきましたが、世界では水が足りなくなってきたのですけれど、日本では、水資源には恵まれながら、節水すればするほど事業経営が悪くなるという状況にあります。そうしたなかでどうやって経営効率を達成していくかという古典的な課題であります。今後議論を進めていくことになると思います。</p> <p>それでは最後になりますが、I委員お願いします。</p>
I 委 員	<p>はい。丁寧な説明ありがとうございます。今までありましたように資料を拝見しますと、料金の引き上げというのは、避けて通れないというふうに思います。</p> <p>「水はただ」と思っている人は、昔に比べれば、大分少なくなっていると思いますが、いつからどのぐらいの金額で値上げをやっていくのか、皆さんの理解を得られるように、ぜひとも、非常に丁寧な説明が必要となると思いますのでよろしくをお願いします。</p> <p>それから住んでる地域が広がれば、当然インフラコストも拡大し、コンパクトであれば、その逆となります。</p> <p>富山市はコンパクトシティの推進ということで、どっちかという、小さくということであると思いますが、この事業とのバランスについてどうお考えなのか教えていただきたいと思っています。</p>
会 長	<p>事務局お願いします。</p>
上 下 水 道 局 長	<p>非常に頭の痛い問題というふうに認識しております。</p> <p>やはり、そのコンパクトシティというところ、別にそこだけを更新する云々というわけではなくて、人が住んでいる、そういういろんな商業、産業施設があるところは、それ以外にもあるので、そこは無視できないと考えております。</p> <p>ただ、優先順位というところでいきますと、どのような更新の仕方によって、順位に影響してくると思います。やはりそのあたりはコストをかける、又はそれをしなかった場合の影響などをしっかり検証しながら、優先順位をつけながら、再整備や、しっかり更新対策をしていくことになってくると思います。</p>
会 長	<p>はい。今の富山市の今後の将来を考えるにあたって、この問題も含めて今後、いろいろ考えていかなければならない大きな問題だったと思います。</p> <p>以上、皆さんにそれぞれご質問いただきまして非常に多面的な評価をいただいたと思います。</p> <p>次第6についてはここまでとしまして、今の議論を踏まえながら次の次第7「検討スケジュールと会議の進め方（案）」について進めたいと思います。</p> <p>それでは事務局から説明をお願いします。</p>
経 営 企 画 課 長	<p>《事務局から「検討スケジュールと会議の進め方（案）」について説明》</p>

<p>会 長</p>	<p>はい。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>今日皆さんから多方面から今後のあり方も含めまして、重要なお意見いただきました。</p> <p>皆さんのご意見の大きな流れとしては、料金改定も含めて、強靱な経営体、経営状態を考えていくということでは、合意が得られているのではないかと思います。</p> <p>料金体系のあり方等の具体的なことについては、今後、経営の改善に向けた計画があると思いますので、議論を進めていきたいと思います。</p> <p>以上で、本日の議論はすべて、終了しました。</p> <p>事務局にお返しします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>会長 並びに 委員の皆様、ありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、第1回富山市上下水道事業経営審議会を終了いたします。</p> <p>なお、本日の議事録につきましては、後日、会長に内容をご確認いただきまして、ホームページに掲載する予定としておりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>また、次回の審議会は、10月中下旬頃の開催を予定しております。改めてご案内させていただきます。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p>